

『漢語和解一覽』(明治九年)の語彙とその性格

— 付 語彙索引 —

The analysis of vocabulary of KANGOWAGETIRAN (1876).

Appendix a word list of it.

大橋 敦夫

Ohashi Atsuo

要旨

明治初期に出版された一枚刷りの単語表『漢語和解一覽』(明治九年)の語彙索引を作成した。近世から盛行した番付表スタイルに模して作られた語彙表を観察することで、当時の漢語モードの一斑を明らかにする。

キーワード…日本語語彙・明治期語彙・漢語・『漢語和解一覽』

一 はじめに

前稿¹⁾に続き明治初期の漢語語彙を考察するため、『漢語和解一覽』(明治九年・全二枚)を取り上げる。本資料は、冊子体ではなく、

近世期に盛行した番付表のスタイルを模した一枚刷りである。

編集に関する例言等は一切なく、語彙選択の過程は、示された語彙から推察するしかない。とはいえ、わざわざ一枚刷りにしてまで示された語彙は、大いに興味をひく。いわば通俗の極みとも言えるもので、当時の漢語のモード(平均値)と見なされるからである。

以下に、前稿と同様の手法で語彙索引を作成するとともに、その性格分析を試みる。

二 資料の紹介

二枚からなる本資料(架蔵)を簡潔に紹介する(図版参照)。

明治九年二月九日出版

<p>覽 一 解 和 語 彙</p>	<p>運遊依惑變林暴夫情哀異從不因情背情振和味然慈業來膠日前平情</p>	<p>取無分不費梓惠尊自祖忘幼實履西際科學用周合說戰謝集一 次昭了低知教權物技置盛輝神當此類散合息易味之 論學學過行書</p>	<p>法區議權刑 則刑論季律</p>	<p>規則 會計</p>
--------------------	--------------------------------------	---	--------------------	--------------

女學公不導ノ城編如ハ 東大員寺町運心兵橋筋 田中安次郎 藤野貞登

書誌的事項は次のとおり。

『漢語和解一覽(かんごわけいちらん)』

明治九年二月二〇日出版

南大口寺町通心齋橋筋西入 田中安次郎 板

第貳大區九小區疊屋町四十七番地 輯者 藤野貞造

大きさ…タテ三九・四 cm × ヨコ五二・〇 cm

『漢語和解後編(かんごわけこうへん)』

明治九年三月出版

大坂府下第一大區井三小區南久宝寺町三丁目 田中安次郎

板

第貳大區九小區疊屋町四十七番地 輯者 藤野貞造

大きさ…タテ三九・五 cm × ヨコ五二・三 cm

以下、それぞれを『一覽』『後編』と略称する。また、虫食
 い・汚れ等で判読不能の場合は、□で示す。

『一覽』の左側欄外に、「これに漏たるハ追々後編に出す」と
 の予告があり、そのとおりに翌月に『後編』が出されているこ
 とがわかる。

枠どりは、番付スタイルになっており、柱の段数(四段)は
 共通だが、左右の段数は、それぞれ四段(『一覽』)、五段(『後
 編』)となっており、また各段ごとの文字の大きさも微妙に異な
 り、掲載語彙数が違っている(後掲・表参照)。

そのため、『一覽』には、一六七語、『後編』には、一八四語
 の計三五一語を載せている。

■表・『漢語和解』の語彙数

漢語和解一覽		
15	5	15
18	5	18
20	5	20
22	2	22

漢語和解後編		
15	3	15
18	1	18
20	2	20
20	2	20
15	2	15

各語は、「読み(ひらがな)・漢語・意味(ひらがな)」の順に示さ
 れている(旧仮名遣い)。語彙の選択・掲出順は、一見したところ、
 明確な基準があるようには見えない。強いて言えば、次の部分に、
 意味分野のまとまりが見て取れる。

『後編』左一段目……職業

同 左二段目……職業・人となり

同 左四段目……身体・疾病

他は、ランダムに語が並んでいる。

だが、柱の部分に「文明開化」「一覽」「新聞」「後編」を掲
 げているので、明治時代初期の開化期の様相を反映する語を収録し
 ているものと見てよからう。この点については、次章以下で再考す
 る。

三 『漢語和解一覽』(明治九年)の語彙の特徴

漢字の旧字体の考察については、別稿にゆずり、音韻・語の消長・和解の問題点の三点から検討する。

三―一 音韻上の特徴

①現代語と違う漢字音

そんきよう(尊敬)・ほんぎやく(叛逆)

ともに現代語では、漢音で「そんけい」「ほんぎやく」だが、呉音となつている。呉音読みの語の存在は、中世語の名残を感じさせる。

②合拗音の残存

くわいけい(會計)・くわうこつ(恍惚)・くわうざん(鉸山)・
くわおう(花押)・くわくてい(確定)・くわつぱん(活版)・
くはぼう(企望)・くわふ(寡婦)・くわんかつ(管轄)・
くわんけい(關係)・くわんけん(管見)・くわんらい(原來)・
ふくわい(附会)・ゆくわい(愉快)

実際の発音を反映しているかは定かではないが、直音化せずに表記されている。これも中世語の特徴である。

③連濁の相違

ばくたい(莫太)

現代語では連濁する「ばくだい」が、清音である。漢字も「大」ではなく、「太」であり相違している。

しつさく(失策) しぞこない

へきゑき(辟易) あとじさり

それぞれ、和解(意味)の部分で、現代語(「しぞこない」・「あとじさり」と違っている。「あとじさり」は、やや俗語的もしくは方言的な例に見える。

三―二 語の消長

①開化語(もしくは時代語)

ぶんめいかいくわ(文明開化)・しんぶん(新聞)・

につぼう(日報)

などは、まさに開化の時代を象徴する語である。一方、

きけつ(剗剗)はんぎほり

かひ(下婢)・ぎちやう(妓長)・ぎちよ(妓女)・せうぎ(小

妓)・さんぷ(口婦)・じひ(侍婢)・口けい(了髻)

などは、現代とは違つた風俗を感じさせる語群である。

②古風さを感じさせる語

全く使われないわけではないが、古風さを醸し出すものである。
しんげ(心下)・ちくよう(竹葉)・ちんぎん(沈吟)・
ていしゆ(低首)・りんせい(釐正)

③死語・廢語

さらに進んで、死語・廢語と目されるものは、以下の語群である。

かんどく(簡牘)・ぎよう(魚糕)・げかん(下疳)・せうは

い(招牌)・せきばい(斥売)・てんぶつほ(典物舖)・にん

せん(人選)・はんかん(反間)・ふじか(不二価)・

ほうでう(報条)・へいとうてん(篋頭店)・
へうとく(表徳)・ほうおん(保嫗)・ほうふ(怖怖)・
らいち(畠地)・りうこう(柳巷)
これらのうち、「へいとうてん(篋頭店)」の和解である
として掲げられた「かみゆいどこ」も、今となつては死語
である。

三—三 和解の問題点

「和解」の文字通り、意味説明が和語一語によるものを主
としているが、中には漢語を漢語で言い換えたものが存在
する。

以下に掲げるものがその例で、言い換えに用いられてい
る漢語は、当時においては、理解しやすすいものと認識され
ていたと考えられる。

いうし(有司) やくにん↓役人
いっばん(一般) 一たい↓一体
おうせつ(応接) おおたい↓応対
がくこう(学校) がくもんのけいこば↓学問
かくわん(家管) ばんとう↓番頭
きかい(器械) どうぐ↓道具
くわいけい(會計) かんちよう↓勘定
くわんかつ(管轄) しばい↓支配
くわんけん(管見) せまきけんしき↓見識
げいぎ(藝妓) げいこ↓藝妓

げきけん(撃剣) けんじゅつ↓劍術
げつきう(月給) つきづきのきうきん↓給金
しつけい(失敬) ぶれい↓無礼
つうけい(通計) つがふ↓都合
はいゆう(俳優) やくしや↓役者
びかう(備考) ようい↓用意
ほうご(保護) だいにじにする↓大事
ほとんど(殆) ちようど↓丁度
ほんぎやく(叛逆) むほん↓謀反
ほんくわん(本貫) ほんごく↓本国
ほんげつ(本月) とうげつ↓当月
りくわい(理會) がてん↓合点
わいざつ(猥雑) こんざつ↓混雑
ゑとく(會得) がてん↓合点
ゑんぶ(演武) ぶげいのけいこ↓武芸・稽古
給金・謀反は、現代語では余り用いられない。
また、藝妓(げいこ)は、出版地を反映してか関西弁的
である。

なお、「ゑんぶ」のような句による和解の例が若干あり、
次例も漢語を含んでいる。

きうり(究理) りをきわめる↓理
けつき(決議) そうだんをき□□↓相談
ふんぱつ(奮發) げんきをだし□□↓元氣

四 おわりに——今後の課題——

本資料の流布状況は、今のところつかめていない。同種の資料探索を行いつつ、掲載語彙が当時の漢語モードと言える状況証拠を整えたい。

語彙の分析については、収録対象となった漢語が、どんな資料群の漢語と共通性を持つのか、調査を展開していきたい。たとえば、

- ① 早引きタイプの『節用集』（江戸末期〜明治初期）、
- ② 明治初期教科書に準拠した語彙集
- ③ 明治初期刊行の新聞もしくはその読解のための語彙集

④ 幕末明治期刊行の草双紙
などが想定される。

〔注〕

1 拙稿『通常物図解便覧』（明治九年）の語彙とその性格——付語彙索引——『学海』二八（上田女子短期大学国語国文学会二〇〇二・三）。同『通常物図解問答』（明治一〇年）の語彙とその性格——付語彙索引——『上田女子短期大学紀要』二六（二〇〇三・一）。同「加藤勤纂輯『通常物問答』（明治八年）の語彙とその性格——付語彙索引——『上田女子短期大学紀要』三四（二〇〇一・一）。

【参考文献】

多賀系絵美「幕末明治期刊行草双紙の漢語語彙の考察」『日本語の研究』二四七 日本語学会 二〇一・九

◆『漢語和解一覽』『漢語和解後編』（明治九年）語彙索引◆
〔凡例〕

・漢語の読みによって、五〇音順に配列した。
・異体字は、可能な限り活字化した。実現できなかった文字には傍線を施した。
・虫損害・汚れ等によって解読不能な個所は、□で示した。

因循	依頼	違背	一般	一決	一別以来	依然	異日	偉業	意外	遺憾	有司	暗誦	豈圖乎	曖昧	■あ行	了譬	音信	□伏
いんじゆん	いらい	いはい	いつぱん	いつけつ	いちべついらい	いぜん	いじつ	いげふ	いぐわい	いかん	いうし	あんしよう	あにはからんや	あいまい		□けい	□しん	□□□□
ぐずぐず	もとめる	そむく	一たい	ひとときまり	ひさしぶり	もとのまま	まへど	すぐれたるわざ	おもひのほか	のこりおおし	やくにん	そらよみ	あもひがけもない	わかりにくいくらきこと	かぶろ	かづれ	かづれ	かくれいる
前	前	前	後	前	後	前	前	前	後	前	後	前	後	前	後	前	前	前

員数	いんすう	かず	後	乾糕	かんこう	ひぐわし	後
腋下	えきか	わきのした	後	贗造	がんぞう	にせ	前
應接	おうせつ	おおたい	前	鑑定	かんでい	めきき	後
悪寒	おかん	さむけ	後	簡牘	かんどく	てがみ	後
穩婆	おんば	とりあけばば	後	感服	かんぷく	かんじいる	後
■か行				諫墨	かんぼく	ふですみ	後
孩児	がいじ	おさなご	後	救助	きうじよ	すくいたすける	前
改正	かいせい	あらたにただす	前	舊弊	きうへい	ふるきわるいくせ	前
街説	がいせつ	せけんばなし	後	舊來	きうらい	むかしより	前
解剖	かいぼう	ほどきわかつ	前	窮理	きうり	りをきはめる	前
狡點	かうかつ	わるかしこひ	後	器械	きかい	どうぐ	前
歌妓	かぎ	げいしや	後	龜鑑	きかん	てほん	後
學校	がっこう	がくものけいこば	前	劊劊	きけつ	はんぎほり	後
愕然	がくぜん	びつくり	前	期限	きげん	ひぎり	後
格別	かくべつ	なみはずれ	前	棄児	きじ	すてこ	後
家管	かくわん	ばんとう	後	規則	きそく	きまり	前
佳肴	かこう	よきさかな	後	妓長	ぎぢやう	おいらん	後
合併	がつぱい	あわす	前	妓女	ぎぢよ	じよろう	後
割烹店	かつほうてん	にうりや	後	逆上	ぎやくじやう	のぼせ	後
可否	かひ	よしあし	後	脚色	きやくしよく	すじ 又 しぐみ	後
下婢	かひ	げぢよ 又 はした	後	魚糕	ぎよこう	かまぼこ	後
甲乙	かふおつ	一二のしだい	後	舉動	きよどう	ふるまい	前
簡易	かんい	ことやすい	前	議論	ぎろん	ことをはかりろんずる	前
姦計	かんけい	□□□ことをはかる	後	疑惑	ぎわく	うたがいまどう	前

敬白	形勢	藝妓	君	原来	管見	関係	管轄	寡婦	活板	確定	確定	花押	恍惚	會計	愚昧	區別	企望	鑛山	苦情	寓居	金瘡	欣然	金絲烟
けいはく	けいせい	げいぎ	くん	くわんらい	くわんけん	くわんけい	くわんかつ	くわふ	くわつばん	くわくてい	くわくしよう	くわおう	くわうこつ	くわいけい	ぐまい	くへつ	くはぼう	くはうざん	くじやう	ぐうきよ	きんそう	きんぜん	きんしゑん
つつしんでまうす	ありさま	げいこ	きみ あなた	もとより	せまきけんしき	あつかりかかはる	しい	やもめ	かつじばん	しつかりときめる	たしかなしるし	かきばん	うつとり	かんぢよう	わげがわからぬ	こまごまにわかる	くはだて	かねのでるやま	せつないここち	かりずまい	きりきす	よろこぶ	きざみたばこ
前	前	前	前	前	後	前	前	後	後	前	前	後	後	前	前	前	後	後	後	後	前	後	
香奠	交際	向後	航海	嚴命	拳法	建白	原始	原告人	喧嘩	研究	眩暈	下痢	月給	決議	口場	劇場	擊劍	下疳	協力	教諭	怯怖	俠客	形律
こうでん	こうさい	こうこ	こうかい	げんめい	けんほう	けんぱく	げんし	げんこくにん	けんくわ	けんきう	けんうん	げり	げつきう	けつき	けじやう	げきじやう	げきけん	げかん	けうりよく	けうゆ	けうふ	けうかく	けいりつ
そなへまつる	つきあい	このち	ふなわたり	きびしきおおせ	やはら	もうしたて	はじまり	ねがいのもとをつげる人	なりどよめく	みきわめる	めまひ たちくらみ	くだり	つきづきのきうきん	そうだんをき□□□	しい	しい	けんじゆつ	かんそう	ちからをあわす	をしへさとす	おくべうもの	おとこだて	つみのきそく
前	前	後	後	後	後	後	後	前	後	前	後	後	前	前	後	後	後	後	前	前	前	後	前

事實	自今	事件	従前	周旋	集會	拾遺	讒謗	爨婦	採用	■さ行	言語道斷	混淆	困窮	誤謬	骨法	骨董	口息	告諭	號令	興廢	功能		
じじつ	じこん	じけん	じうぜん	しうせん	しうくわい	しうい	さんほう	さんぷ	さいよう		こんごどうだん	こんこう	こんきう	こびう	こつほう	こつどう	こそく	こくゆ	こうれい	こうはい	こうのう		
わけがら	いまより	ことがら	まへから	せわする	よりあい	のこるをひらふ	そしる	めしたき	とりもちいる		ばもすへていわんかたもなきをいふ	いりまじり	こまる	まぢがい	ほねぐみ	ふるどつぐ	いつすんのがれ	いひさとす	さしづ	おこりすたれる	きぎめ		
前	前	前	前	前	前	後	前	後	後		後	後	前	前	後	後	前	後	前	前	後		
診察	心下	四隣合壁	處分	處女	所置	書肆	食客	娼婦	冗費	蒸糕	春盤	潤色	宿酒	宿疾	謝罪	勝敗	償金	資本	侍婢	至當	實地	失策	失敬
しんさつ	しんげ	しりんがつべき	しよぶん	しよぢよ	しよち	しよし	しよかく	しようふ	じようひ	じようこう	しゆんぱん	じゆんしよく	しゆくしゆ	しゆくしつ	しやざい	しやうはい	しやうぎん	しほん	じひ	しとう	じつち	しつさく	しつけい
うかがいみる	むなさはき	きんじよとなり	はからひぶり	きむすめ	はからひぶり	ほんや	いそうろう	おやま	むたないりよう	むしぐわし	ほうらい	かざる	ふつかよい	ちべう	つみをわびる	かちまけ	つくのひのかね	もとで	こしもと	もつともなる事	まことのところ	しぞこない	ぶれい
後	後	後	後	後	後	後	後	前	後	後	後	後	後	後	前	後	後	後	前	前	前	前	

迅速	じんそく	すはやう	前	是非	ぜひ 又 しひ	よしあし	後
身體	しんたい	からだ	後	鮮魚	せんきよ	なまざかな	後
新盤	しんばん	ほうらい	後	戦争	せんそう	たたかい	前
新聞	しんぶん	あたらしいはなし	後	千變万化	せんべんばん	いろいろさまざまにうつり	後
水晶糖	すいせうとう	こぼりざとう	後		くわ		
出納	すいとう	だしいれ	後	草稿	そうかう	したがき	後
數回	すくわい	たびたび	後	測量	そくりよう	はかり□□□	前
素見	すけん	ひやうし 又 すがた	後	齟齬	そこ	くいちがい	前
頗	すこふる	よほど	後	尊敬	そんきよう	うやまふ	前
情々	せいぜい	なるたけ	後	尊大	そんだい	おおへい	前
製造	せいぞう	こしらへる	後	■た行			
世態	せいたい	よのすがた	後	怠慢	たいまん	おこたる	前
盛大	せいたい	さかん	前	大略	たいりやく	あらまし	後
青年	せいねん	としわか	後	懦弱	だじやく	やくにたたず	前
姓名	せいめい	なまへ	後	多端	たたん	ことおほし	後
青樓	せいろう	ちやや	後	脱走	だつそう	かけおち	前
小妓	せうぎ	しんぞう	後	彈丸	だんぐわん	てつぱうだま	後
招牌	せうはい	かんはん	後	探索	たんさく	さぐりもとむる	前
承伏	せうふく	かしこまる	前	断然	だんぜん	きつぱり	後
斥賣	せきばい	やすうり	後	歎息	たんそく	なげく	前
説教	せつきよう	をしへをとく	前	談話	だんわ	はなし	後
接骨	せつこつ	ほねつき	後	注意	ちうい	こころつけ	前
折衷	せつちゆう	よいところをとりきめる事	後	中暑	ちうしよ	ちうしよ	後
説得	せつとく	いいさとす	前	痴漢	ちかん	ばか 又 ふぬけ	後

吐瀉	登庸	透徹	當然	騰貴	盜汗	展覽	典物舖	點心	展觀	靚面	叮嚀	低首	定額	定價	通計	通好	沈吟	條理	著眼	遲刻	竹葉	知己	
としや	とうよう	とうてつ	とうぜん	とうき	とうかん	てんらん	てんぶつほ	てんしん	てんくわん	てきめん	ていねい	ていしゆ	ていがく	ていか	つうけい	つうかう	ちんぎん	ぢようり	ちやくがん	ちこく	ちくよう	ちぎ	
はきくだし	めいしだされる	すきとをる	あたりまへ	ねたんのあがること	ねあせ	みくらへ	しちや	ちやのこ	まのあたり	ねんころ	かしらを□□る	きまりのかず	さだめねだん	つがふ	ちなみ	しあん	すじみち	めをつける	□□れる	さけ	ともだち		
後	前	前	前	前	後	前	後	後	後	後	前	前	前	後	後	後	前	前	後	前	後	前	
繁殖	叛逆	反間	發明	發兌	拔萃	拔群	發狂	薄命	莫太	保護	傍訓	俳優	敗北	微毒	廢止	■は行	年紀	任選	乳母	入費	日報	柔弱	■な行
はんしよく	はんぎやく	はんかん	はつめい	はつだ	ばつすい	ばつくん	はつきやう	はくめい	ばくたい	はうこ	ばうくん	はいゆう	はいぼく	ばいどく	はいし		ねんき	にんせん	にふぼ	にふひ	につぼう	にうじやく	
しげくふゑる	むほん	まはしもの	みひらく	うりだす	ぬきがき	ひとなみにすぐれる	きちがい	ふしあはせ	このうへもない	だいにする	ふりかな	やくしや	いくさにまける	ひゑ	やめる		としのころほひ	ひとをゑらむ	うば	いりよう	ひびのしらせ	よわよわしい	
前	前	後	前	後	後	前	後	後	前	後	後	後	後	後		後	前	後	後	後	前	前	

判然	はんぜん	はつきり	前	分散	ぶんさん	ちりぢり	前
鼻頂	ひいき	ちからをつける	後	芬草	ぶんそう	たばこ	後
比較	ひかう	くらべる	後	奮發	ぶんぱつ	げんきをだし	前
備考	びかう	ようい	後	文明開化	ぶんめいかい	くにながひらけひともはつめい	前
秘結	ひけつ	ふつうじ	後		くわ	になる	
被告人	ひこくにん	ねがいにこたへる人	前	弊害	へいがい	ふべんり	前
畢竟	ひつきやう	つまるところ	後	平均	へいきん	ならしかたをちなし	前
皮膚	ひふ	きめ	後	弊習	へいしう	わるきしくせ	前
疲弊	ひへい	つかれたをる	前	篋頭店	へいとうてん	かみゆひどこ	後
誹謗	ひほう	そしる	前	表書	へうしよ	うはがき	後
裨益	ひゑき	たすけます	前	表徳	へうとく	□□□	前
符合	ふがう	よくあふ	前	辟易	へきえき	あとじさり	前
不合	ふがふ	あわざる	前	僻論	へきろん	ふりくつ	前
舞妓	ぶぎ	まいこ	後	勉強	べんけう	つよくせいたす	前
附會	ふくわい	こじつけ	前	便毒	べんどく	よこね	後
不二價	ふじか	かけねなし	後	偏頗	へんぱ	かたよる	前
浮説	ふせつ	とりとめぬはなし	前	勉強	べんれい	せいたす	前
普通	ふつう	どこにでもとほる	後	報恩	ほうおん	こもり	後
沸騰	ふつとう	わきあがる	後	報恩	ほうおん	おんかへし	後
不佞	ふねい	わたくし	後	保媼	ほうおん	こもり	後
不平	ふへい	こころよからず	前	妨害	ぼうがい	さまたげ	前
無頼	ぶらい	あふれもの	前	忘却	ぼうきやく	わすれる	前
浮浪	ふらう	やどなし	後	方今	ほうこん	ただいま	前
附録	ふろく	つけしるす	後	奉守	ほうしゆ	うけまもる	前

遊惰	■や行	摸寫	目標	目的	盲昧	名義	無籍	萬一	埋伏	■ま行	奔走	本月	本賞	補亡	殆	僕	俸祿	朋友	芳茗	報条	報知	法則	房主
ゆうだ		もしや	もくへう	もくてき	もうまい	めいぎ	むせき	まんいち	まいふく		ほんそう	ほんげつ	ほんくわん	ほほう	ほとんど	ほく	ほうろく	ほうゆう	ほうべい	ほうでう	ほうち	ほうそく	ぼうしゆ
あそびおこたる		うつつ	めじるし	めあて	もんもう	となへ	やどなし	もし	かくれている		つけあるく	とうげつ	ほんごく	□□をとらへる	ちようど	わたくし	ふちだが	ともだち	よきちや	ひきふだ	つげしらす	おきて	いぬめし
前		後	後	前	前	後	後	後	後		前	前	後	前	後	前	後	後	後	後	前	前	後
陋習	了解	流布	釐正	吝嗇	履歴	良圖	良人	兩端	理會	理解	柳巷	流言	乱法	濫觴	落魄	落成	落款	落暉	狼狽	蟲地	■ら行	愉快	
ろうしう	れうげ	るふ	りんせい	りんしよく	りれき	りようと	りようじん	りやうたん	りくわい	りかい	りうこう	りうげん	らんぼう	らんじやう	らくはく	らくせい	らくくわん	らくき	らうばい	らいち	らいし		ゆくわい
いやしきならい	はつきりする	せけんへひろがる	ただし	しはんぼ	これまでのしだいから	よきはかりこと	おつと	ふたまた	がてん	わけをつける	いろまち	いいふらす	むちやくちや	はじまり	おちぶれる	できあがり	書画のながき	ゆふひ	うろたへる	あまるとち	あまるかみ		こころよき
前	前	前	前	後	前	後	後	前	前	前	後	前	前	後	前	前	後	後	前	前	後	前	

■わ行										
猥雑	わいざつ	こんざつ								後
往々	わうわう	いくらも								前
和議	わぎ	なかなほり								後
惑溺	わくでき	のろける								前
惑乱	わくらん	こころのとりとめがない								前
和親	わしん	なかよし								前
依怙	ゑこ	よりのむ								前
會得	ゑとく	がてん								前
沿革	ゑんかく	あらためあらたむ								前
縁起	ゑんぎ	ことのおこり								後
演武	ゑんぶ	ぶけいのけいこ								後